

コシアカツバメの授業をしました

2018.5～7 本事業担当：小嶋 明 男

県内の自然再生団体が小中学生対象に、地域の希少生物の調査や環境整備を継続して提供することで環境保全の関心を高め、希少生物の保全を推進することを目的とした県の補助事業に参加しました。野鳥の会福井県は準絶滅危惧種のコシアカツバメの観察と授業を南越前町の南条小、若狭町の気山小、高浜町の和田小で5～7月に行いました。(酒井・門前・武田・小嶋・辻・高橋・田川・平城)

1 学校との打ち合わせ・授業プランづくり

先のレッドデータ改訂作業で確認できたコシアカツバメが営巣していた学校を南条郡から大飯郡まで今年も巣を使っているか見て回りました(小嶋・武田・平城)。次にいくつかの学校を絞り込み、校長先生にお願いに行きました。了解して下さった学校に再度うかがい、担当の先生と詳細に打ち合わせをして観察と授業の計画を練りました。超多忙となっている学校の教育活動に割り込むかたちでスタートしましたから遠慮が必要でしたが、3～4時間の授業プランを練り上げました(小嶋・平城)。

2 コシアカツバメの授業

① コシアカツバメとはどんな鳥か

見慣れているツバメとの違いを写真で学習後、双眼鏡で巣を見てスケッチ。ヒナが時たま顔を出すと「可愛いー」の声

② コシアカツバメのエサ運び観察

ストップウォッチを使ってどれくらいの間隔で餌を運んでくるかを調べ、「うわーまた来た!」「早っ」平均タイムを計算しました。エサは潜り込んでヒナに与えるのでよくわからないのですが、落としたエサを観察した子がいて「虫やった!」ということで決着。

和田小を担当した平城さんは次のような「めあ

て」を持って授業を進められたようです。

◎ツバメたちは、日本(和田)に来て何をしているか?

- ・3種のツバメの飛び方・鳴き方の違いを知る。
- ・コシアカツバメの巣材集め・巣作りの様子を観察する。
- ・ツバメの子育ての様子を観察する。
- ・ツバメたちがヒナを育てるのに大変苦労していることを知る。
- ・和田小学校にあるコシアカツバメの巣の数を実際に数える。

3校とも、ツバメとコシアカツバメと両方を観察し比べることで、コシアカツバメの特徴を明らかにしようとしていました。また、頻繁にエサを運んでくることから子育ての大変さを知ってもらいたいと思いタイム計測を入れました。



武田さん発案で先生役はツバメのお面をつけ、子どもたちが描いたツバメはブローチにしてプレゼント



平城さんは和田小校区のツバメマップを完成



3 考える授業を

最後に貴重なコシアカツバメが自分たちの学校で営巣できるのはなぜかを考えてもらいました。周辺にエサとなる昆虫が豊富で巣材となる泥が確保できることまで考えてもらいました。

県域準絶滅危惧種

コシアカツバメの授業

— 気山小と南条小で小学生対象に —
2019.7 担当：小嶋明男

□その昔(三方町気山小学校で)

昭和から平成に変わった年、新築された気山小にコシアカツバメはやってきた。授業をしている横を飛ぶコシアカツバメは校舎に巣を作りヒナを育て始めた。あれから 30 数年が経過。

□「残そう、伝えよう！」生きもの保全事業初年度

この事業は、県内の自然保護団体が絶滅の恐れのある種の保全を目的とし継続して子どもたちを対象に活動することを福井県が補助するもの。初年度の昨年からは野鳥の会福井県（以後「当会」と略記）は参加（つぐみ187号参照）。

□2年目の今年度は気山・南条の2小学校で

【南条小4年生 43名】学校側から今年は昨年の半分の時間で授業を行うことを求められ、松村事務局長が座学と野外観察の2時間の授業を立案。県内のコシアカツバメの詳細な生息データを示し、観察する南条中学校が県内最大のコロニーであり、大変貴重な場所であることを強く印象づけた後、野外観察を行う組み立て。シャープな授業展開に感心！

隣の南条中でたくさんの巣や出入りするコシアカツバメを観察し、すぐ横の公民館にはほとんど営巣していないことから、巣を作る場所の条件を考えさせていた。学校横を日野川が流れ、そこに架かる橋にはイワツバメが営巣し、それも間近に観察。

【気山小3,4年生 23名】今年も4日間（7校時）の時間をいただき、小嶋と武田が担当①コシアカツバメ紹介・ツバメやイワツバメとの比較②集落内をツバメの巣探し、美方高校と嶺南東特別支援学校まで足を伸ばしコシアカツバメのたくさんの巣を観察③気山小の校舎のコシアカツバメの巣に出入りする親鳥観察④絶滅危惧種は里に多いこと、コシアカツバメがすすめる理由、スズメとの関係…こんな構成で行った。

□子どもたちの思い

昨年気山小ではスズメに巣を乗っ取られ、2つしか営巣できていなかった。今年は、子どもたちが授業の合間の休み時間にスズメを追い払おうと頑張ったらしい。他の理由があるにしろ、なんと今年は4つ営巣できた。子どもたちが昨年観察してコシアカツバメを守りたいという気持ちが高まったことは嬉しい限り。

□今後、授業の練り上げと事務処理の見える化

この補助事業は、当会が子どもたちに野鳥観察を通じ、生きものつながりを知らせ、生態系を守ることの大切さを直接伝えることが出来る。当会としては指導内容や方法を練り上げてより良い授業を提供していきたい。また当事業の当会担当者は、複雑な事務処理の流れを一覧にして「見える化」しておく必要がある。

